

教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価報告書

(令和4年度分)

令和5年8月

北名古屋市教育局教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

教育委員会は、「北名古屋市教育大綱」及び「北名古屋教育推進スキーム」に基づき、令和4年度教育委員会基本方針を定め54事業を実施した。その中から、いくつかの事業を抽出し、その各事業に対して、教育に関し学識経験を有する外部評価委員の知見を活用して点検及び評価を行い、意見をいただきながら事業の「成果」、「課題」を実績データに基づき検証し、「今後の対応」を項目ごとに整理した。

2 点検及び評価の対象

令和4年度における教育委員会所管の事業から、重点目標の達成に資する主な事業を抽出し対象としました。

3 点検及び評価の方法

- (1) 点検及び評価にあたっては、基本方針・重点目標に基づき、事業の執行に伴う成果、課題について実績データを基に整理し、今後の対応を明記しました。
- (2) 点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方2名を北名古屋市教育委員会外部評価委員に委嘱し、北名古屋市教育委員会外部評価委員会においてご意見、ご助言をいただくとともに、評価書に意見を付しました。
- (3) 点検及び評価にあたっては、その結果を評価報告書として取りまとめ、令和5年8月開催の北名古屋市教育委員会にて議決をしました。

【令和5年度外部評価委員】

(敬称略)

氏名	所属
土井謙次	名古屋芸術大学 教育学部 准教授
東野真志	愛知教育大学 教員就職特任指導員

4 教育委員会の活動

(1) 北名古屋市教育委員名簿

令和4年9月12日現在

職名	氏名	任期
教育長	松村光洋	令和4年8月26日～令和6年5月31日
委員 (教育長職務代理者)	岡島秀隆	令和4年5月23日～令和8年5月22日
委員	池山健次	令和3年5月23日～令和7年5月22日
委員	鈴野範子	令和2年5月23日～令和6年5月22日
委員	山田聡子	令和元年5月23日～令和5年5月22日
委員	寺川理絵	令和2年5月23日～令和6年5月22日

(2) 教育委員会会議内容

4月8日 (金)	1-1 教育長報告 1-2 その他報告 (1) 愛日地方教育事務協議会について 2 所管事項報告 (1) 学校教育課 ・市職員の人事異動について ・北名古屋市障害者活躍推進計画実施状況について ・令和4年度北名古屋市立小中学校組織現況について ・重大事態に関する調査報告書について
5月18日 (水)	1 前議事録の承認 2-1 教育長報告 2-2 その他報告 (1) 市内小中学校の新型コロナウイルス感染状況について (2) 小中学校行事予定について (3) 民間プール活用事業について 3 所管事項報告 (1) 学校教育課 ・令和3年度北名古屋市小中学校卒業者の進路状況について

	<p>4 議事</p> <p>議案第9号 北名古屋市立学校教職員旧姓使用取扱規程の一部改正について</p> <p>議案第10号 北名古屋市社会教育委員の委嘱について</p> <p>議案第11号 北名古屋市図書館協議会委員の任命について</p>
6月8日 (水)	<p>1-1 教育長報告</p> <p>1-2 その他報告</p> <p>(1) 給食費の無償化について</p> <p>2 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北名古屋市議会について <p>(2) スポーツ課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンボプールの開場に伴う対応について
7月13日 (水)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 議事</p> <p>議案第12号 令和5年度使用小・中学校教科用図書の採択について</p> <p>議案第13号 学校給食費の改定に係る諮問について</p> <p>議案第14号 北名古屋市社会教育委員の委嘱について</p> <p>議案第15号 北名古屋市図書館協議会委員の任命について</p> <p>議案第16号 北名古屋市文化財保護審議会委員の委嘱について</p> <p>議案第17号 新川東部浄化センターサッカー広場の設置及び管理に関する条例施行規則の制定について</p> <p>議案第18号 北名古屋市親水運動広場の設置及び管理に関する条例施行規則の制定について</p> <p>議案第19号 北名古屋市体育館の設置及び管理に関する条例施行規則等の一部改正について</p> <p>3 教育長報告</p> <p>4 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北名古屋市議会について <p>(2) スポーツ課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツであ〜そぼ！の実施について

<p>8月3日 (水)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前議事録の承認 2 議事 <ul style="list-style-type: none"> 議案第20号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について 議案第21号 愛知県教科用図書採択地区の適正規模化に係る意向確認について 3 教育長報告 4 所管事項報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校教育課 <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食費について (2) スポーツ課 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンボプールの利用状況について 5 承認事項 <ul style="list-style-type: none"> 教育長の辞職の同意について
<p>8月22日 (月)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 所管事項報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校教育課 <ul style="list-style-type: none"> ・校長会の要望書について
<p>10月6日 (木)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前議事録の承認 2 教育長報告 3 教育長職務代理者の指名報告 4 所管事項報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校教育課 <ul style="list-style-type: none"> ・北名古屋市議会について ・北名古屋市条例表彰について ・令和4年度全国学力学習状況調査報告について ・学校施設整備事業について (2) スポーツ課 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンボプールの利用状況及びアンケート調査について ・きたなごやRUNフェスタについて 5 議事 <ul style="list-style-type: none"> 議案第22号 北名古屋市立中学校制服検討委員会設置要綱の制定について

	議案第23号 北名古屋市総合運動広場の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について
11月4日 (金)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 議事</p> <p>議案第24号 令和5年度教職員定期人事異動方針について</p> <p>議案第25号 北名古屋市いじめ基本方針の一部改正について</p> <p>議案第26号 北名古屋市豊かな学び創造推進協議会設置要綱の一部改正について</p> <p>議案第27号 令和5年度小中学校の儀式等について</p> <p>3-1 教育長報告</p> <p>3-2 その他報告</p> <p>(1) 愛日地方教育事務協議会について</p> <p>(2) 尾張部都市教育長会議について</p> <p>4 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食費について <p>(2) スポーツ課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツであ～そぼ！（鬼ヶ島編）の実施報告について
11月22日 (火)	<p>1 議事</p> <p>議案第28号 学校給食費について</p>
1月16日 (月)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 議事</p> <p>議案第1号 北名古屋市立中学校部活動検討委員会設置要綱の制定について</p> <p>2 教育長報告</p> <p>3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北名古屋市議会について ・儀式の出席者等について ・中学校制服の見直しについて

	<p>(2) 生涯学習課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年はたちのつどい開催結果について ・ふるさとワクワク劇場について <p>(3) スポーツ課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県市町村対抗駅伝競走大会の結果について
2月9日 (木)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 議事</p> <p>議案第2号 令和5年度全国学力・学習状況調査について</p> <p>議案第3号 北名古屋市立中学校部活動指導サポーター派遣事業実施要綱の制定について</p> <p>議案第4号 北名古屋市社会教育委員の委嘱について</p> <p>3 教育長報告</p> <p>4 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度小・中学校卒業式の告辞について ・令和5年度小・中学校入学式の出席について ・令和5年度教育委員会定例会日程について ・令和5年度現職研修日程について ・令和5年度学校訪問日程について <p>(2) スポーツ課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きたなごやRUNフェスタについて
3月2日 (木)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 議事</p> <p>議案第5号 令和5年度北名古屋市教育委員会基本方針について</p> <p>議案第6号 教職員の人事異動について</p> <p>3 教育長報告</p> <p>4 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市議会定例会について ・令和4年度小・中学校卒業式の告辞について ・卒業式におけるマスクの取扱いに関する基本的な考え方について ・令和5年度小・中学校入学式の告辞について

3月31日 (金)	<p>1 議事 議案第7号 北名古屋市学校給食費取扱要綱の制定について</p> <p>2 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人事異動について ・市職員の人事異動について ・新学期以降の学校におけるマスク着用の考え方の見直し等について
--------------	--

(3) 教育委員が出席した学校行事

ア 学校訪問

白木小学校 5月19日(木)、白木中学校 5月30日(月)
 鴨田小学校 6月9日(木)、西春小学校 6月20日(月)
 西春中学校 10月20日(木)、訓原中学校 10月24日(月)
 師勝北小学校 10月27日(木)、師勝西小学校 11月7日(月)

イ 卒業式

小学校 3月20日(月)
 中学校 3月7日(火)

5 総合教育会議

令和4年10月6日(木)

議題

中学校部活動について

I 学校教育課

令和4年度の点検及び評価の対象事業については、学校の環境整備面に係る以下の3つの項目を対象とした。

番号	点検及び評価項目	点検及び評価の対象とした理由
1	学校のICT活用による学びの充実	<p>これからの社会を生きていく子どもたちが、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力の育成していくため、児童生徒に一人1台のタブレット端末を配備した。</p> <p>今後、教育活動を支える先端技術を活用し、学びを充実していく必要があるため。</p>
2	学校の働き方改革の推進	<p>学校教育を支える教職員の長時間勤務が深刻な状況にあり、限られた時間の中で、効果的な教育活動を行えるようにするために学校の働き方改革の取組を進めている。令和4年度は校務に係るICT環境を更新し業務の軽減と効率化を図った。</p> <p>今後、在校時間の要因となっている中学校部活動の地域移行を進めていく必要があるため。</p>
3	学校施設の整備	<p>学校施設の多くは昭和50年前後に集中的に整備されており、これまで部分的な改修は行っているものの全体的に老朽化・機能低下が進行しており、今後、多額の費用が集中的に必要となる。令和4年度には、本市で一番目の校舎の長寿命化改修工事が完了した。</p> <p>今後、学校施設の長寿命化を念頭に改修し整備を進めていくとともに、プール施設については民間施設の活用も含めた対応が必要となるため。</p>

学校のICT活用による学びの充実

令和4年度教育委員会点検及び評価書

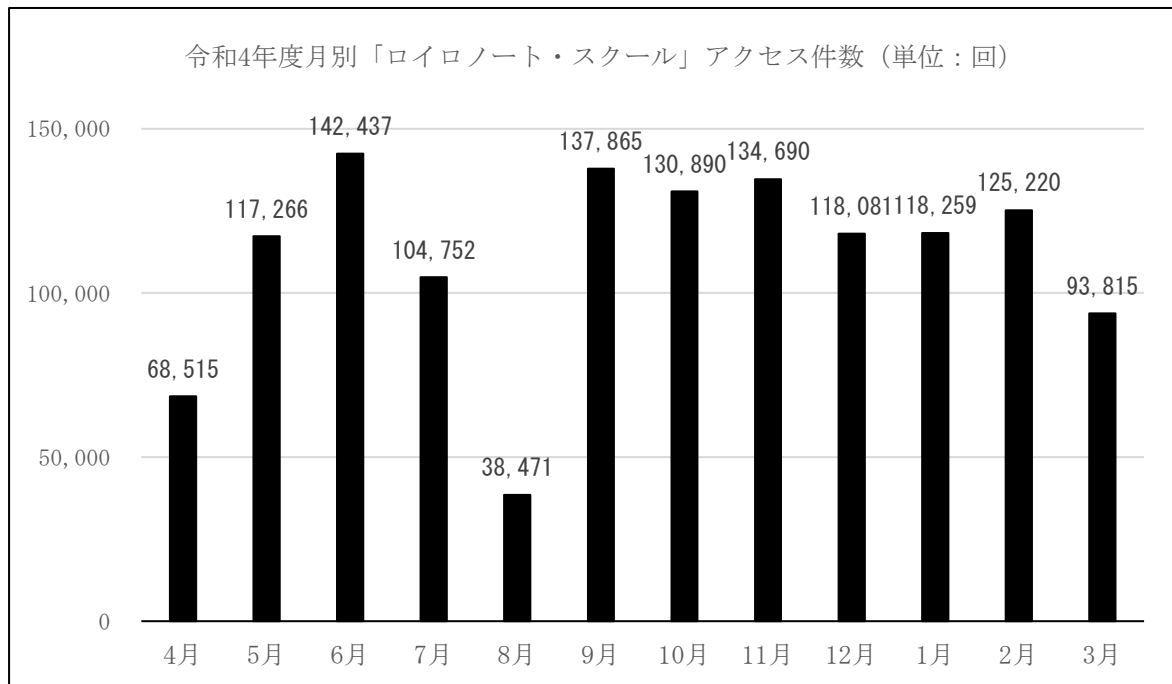
重点目標	自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育む。
令和4年度 の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を効果的に活用した授業の質の向上を図るため、GIGAスクールサポーターが各学校を訪問して授業を参観し、教員への指導・助言を行った。 ・超短焦点プロジェクターと大型スクリーンを各教室に設置した。 ・教員用のタブレット端末を100台購入し、より多くの教員がタブレット端末を専有で使用できる体制づくりを進めた。 ・AI機能を搭載したデジタルドリルの導入に向けて、複数の業者の提案を受け、本市の方針に沿った内容のものを選定した。 ・中学校長と小学校長各1名、各校の情報教育担当者1名、アドバイザー1名及び学校教育課職員で構成の「ICT教育推進委員会」を5回開催し、各学校の取組状況の共有、困り事の解消に向けた協議等を行った。 ・保護者に対して、タブレット端末の利用方針や注意事項について文書で案内するとともに、タブレット端末を貸与することについての同意書を求め、学校がタブレット端末を使って教育活動を進めていくことを周知し理解の促進に努めた。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・導入から3年目を迎えた児童生徒一人1台のタブレット端末は道具として活用され、学校での活用が日常的となった。 ・超短焦点プロジェクターと大型スクリーンを各教室に設置したことにより、学習活動の利便性を高めた。 ・家庭への持ち帰りによるタブレット端末の活用については、学校から配布する資料のペーパーレス化、コロナ対応や不登校の児童生徒の家庭学習など、各学校の状況に併せた取組が進んだ。 ・各校のICTが得意な教員が集まり、タブレット端末のより効果的な活用方法等を共有・教示する関係性が構築された。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール時代の授業として、タブレット端末の機能の利便性を様々な教科の学習で日常的に活用することで、新しい学習活動を更に推進する必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の可能性を最大限に引き出すため、タブレット端末を効果的に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していく必要がある。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に本市が導入するA I機能を搭載したデジタルドリルについて、授業での効果的な活用、家庭学習等での活用を推進していく。 ・愛日地方教育事務協議会の学習指導の研究校に西春小学校が指定されたことに伴い、国語の学習者用デジタル教科書の活用による指導研究を行う。 ・I C Tを更に活用していくにあたり、情報セキュリティに関するインシデントを防ぐため、情報セキュリティポリシーの遵守が求められる。

実績データ

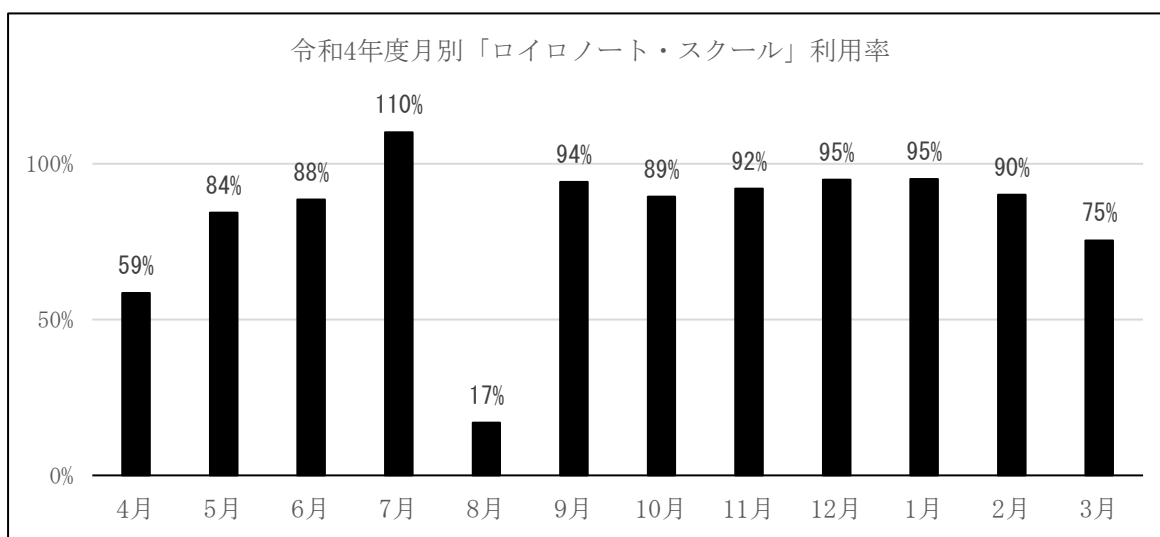
1 タブレット端末の活用状況

①児童生徒の学習支援ソフト「ロイロノート・スクール」アクセス回数



- ・学習支援ソフト「ロイロノート・スクール」
 全ての授業で使える思考力を育てるソフトで、児童生徒自身が考え、発表し、発表した内容を児童生徒間で共有することにより、協働の学習につなげることができるシンキングツール
- ・児童生徒のアクセス回数
 全小中学校の児童生徒が、ロイロノート・スクールにアクセスした回数で、1日の複数回のアクセスについて1回とカウント（学校休業日のアクセス数も含めた数）

②児童生徒の学習支援ソフト「ロイロノート・スクール」の利用率



・児童生徒の学習支援ソフト「ロイロノート・スクール」の利用率の計算方法

①児童生徒の学習支援ソフト「ロイロノート・スクール」アクセス回数
 ÷ 「月別の学校開校日（8月については、「31日」と設定）
 ÷ 「令和4年5月1日児童生徒数の7,316人」

・利用率が100%を超える理由

学校休業日のアクセス数もカウントしているため

（例：7月の場合 アクセス104,752回÷学校開校日13日÷7,316人=110%）

2 GIGAスクールサポーターの活動内容

訪問回数	主な内容
小学校 88回 中学校 55回 (1回：4時間程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校別の年間研修計画打合せ、指導案の検討 ・授業参観、授業後の振り返り指導 ・「ロイロノート・スクール」のバージョンアップに伴う実践的な使い方を教示 ・先進校の実践情報の提供など

3 取組内容に係る主な事業費

項目	内容	事業費
超短焦点プロジェクターの購入	普通教室及び特別教室に設置するための339台購入。(全額、国庫補助活用)	72,156,150円
タブレット端末の購入	教員用に100台購入	5,555,000円

外部評価委員の意見

- 市内の学校を訪問すると、1人1台のタブレット端末はよく使われると感じている。
これもこれまでの準備の成果だと考える。ただ、学校により、また同じ学校内でも教師により、その使い方の差は大きいと聞いている。市内のどのクラスの子もその便利さを享受できるよう、今後も研修をお願いしたい。
- また最も使用されているロイロノートは、便利ではあるが、たくさんあるアプリケーションの一つであるため、児童生徒が将来、社会に出ても、様々なアプリケーションを使いこなせるような汎用性のあるICT活用能力を身に付ける指導をお願いしたい。
- タブレット端末が道具として活用され、学校及び家庭での活用が日常的になるためには、ICT環境の整備が不可欠である。教員用のタブレット100台購入、超短焦点プロジェクターと大型スクリーンを各教室に設置により、学習活動の利便性が高められている。このことにより授業がどう変わり、子どもの学習効果がどう高まったか、活用の実態（教科、場面）はどうか等、ICT活用による学びの充実度をチェックしていく必要がある。
- GIGAスクールサポーターについて、小中あわせて143回、1校平均9回程度実施されており、児童生徒にとっても教員にとってもICTを効果的に活用する環境が整っていると思われる。
- 各学校において、ICTが得意な教員が集まり、タブレット端末のより効果的な活用方法等を共有・教示する関係性が構築されているようである。この点については、教師が自主的に研鑽に励んでいることを称える一方、各校の取組に温度差が生じないように、各校の現状把握を定期的を実施し、市全体で教師のICT活用能力向上に向けた研修も充実させていただきたい。

学校の働き方改革の推進

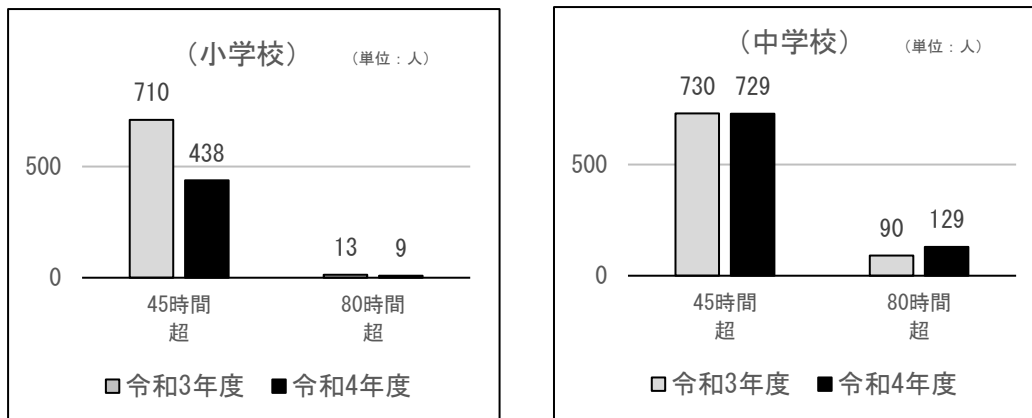
令和4年度教育委員会点検及び評価書

重点目標	<p>子どもの意欲を高め、教師の働きがいのある魅力的な教育環境づくりを進める。</p>
令和4年度 の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校部活動について、令和3年度から段階的に縮小し、令和4年度の活動をもって廃止した。 ・中学校部活動の改革に向けて、総合教育会議や教育委員会定例会で委員の意見を聴取するとともに、6中学校の校長と検討を進めた。 ・教育委員会が実施する会議の必要性を精選し、定例的な会議については書面会議による実施や中止とした。 ・対面式研修を、切り替えが可能なものについてはオンライン研修とした。 ・6年毎のサイクルで実施している学校情報システム機器整備について、令和4年9月にシステムと機器の入れ替え、新たな支援業者による体制を整え、新しい環境による教職員の戸惑いを解消するため、令和4年9月からICT支援員を2名配置し各校を巡回することにより、教職員の支援体制を構築した。 ・在校時間の管理方法として、タイムレコーダーの打刻によるデータ管理から、令和4年9月の学校情報システムの入替えに併せて校務システムと連携する打刻方法に切り替え、データ集計の利便性を高めた。 ・教員の働き方改革を進めるための国の補助金を活用し、「教員業務支援員」を各小中学校に1人配置、「部活動指導員」の中学校への配置を継続した。 ・教職員がストレス状態を把握できるメンタルヘルスの取組を継続した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の要望がますます多様化し、多忙を極める学校現場において、子どもたちにとって真に必要なものは何かを考えながら、各学校にて定時退校日やノー残業デーに取り組むなど、在校時間に対する意識の高まりを始め働き方改革への取組が一過性のものとならず推進している。 ・令和4年9月の新システムの整備後、教員が活用するための基本的な利用法の習得、機器やソフトウェアの不具合発生時の対応などについて、支援業者の電話相談と各学校を巡回訪問するICT支援員の対応により、校務の効率化を図ることができた。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の働き方改革として様々な取組を進めたが、中学校は部活動指導に係る時間の影響が大きく、教員の長時間労働の改善には至っていない。 ・学校の働き方改革の大きな柱の1つである部活動の対応について、国策で部活動の地域移行が進められているが、本市において将来にわたり子どもたちが活動を継続できる機会を確保するための環境を整えるためには、受け皿となるスポーツ・文化団体等との連携、指導者の質・量の確保、会費・保険の保護者負担などの課題が山積している。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動に関わる外部指導者を登用するため、「部活動指導員配置制度」に加えて、謝礼で支払う「部活動指導サポーター制度」を新たに構築し、教員の負担の軽減に努める。 ・部活動の地域移行に向けた検討を進めるため、総括コーディネーターを配置し、関係者との連絡調整・指導助言等を行う。 ・学校の働き方改革に対する地域の理解と協力を得るための取組を継続する。

実績データ

1 在校時間の推移(令和3年度・令和4年度の1月当たりの時間外の1年間の延べ人数)



2 ICT支援員の活動内容

訪問回数	主な内容
小学校 133回 中学校 84回 (1回:8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションの活用による欠席連絡システムを構築 ・授業に必要な教材の作成を支援 ・校務に関わるシステム全般の運用に関わる効率化の実現 ・他の学校の成功事例や専門的な情報を提供 ・ICT機器の操作方法に係る指導や研修会の実施

3 本市における在校時間の是正に向けたこれまでの取組状況

①学校の開錠時間・施錠時間等として、開錠時間を早くとも午前7時30分、消灯・施錠時間を遅くとも午後8時に設定
②平時の電話等の対応時間を午前7時30分から午後6時30分までとし、対応時間以外は留守番電話機能を活用
③夏季休業中に愛知県教育委員会が定める「会議、行事等を行わない期間（8月10日から8月16日まで）」に併せて、学校閉庁日を設定
④教職員のメンタルヘルス対策の推進として、ストレスチェックを年2回実施し、医師による面接指導体制を整備
⑤教員の在校時間の是正に向けた取組について、保護者への案内文等で適宜周知
⑥事務職員との連携・分担による業務改善を推進
⑦「北名古屋市部活動指導ガイドライン」を策定し、休養日等の設定により部活動指導に関わる負担を軽減
⑧国庫補助制度を活用し、部活動指導員を登用、教員業務支援員を配置

4 ICT環境に係る主な事業費（令和4年9月から令和5年3月までの7か月分）

項目	内容	事業費
学校情報システム機器の更新	校務パソコン・ネットワーク機器のリース、ヘルプデスク対応	101,814,713円
学校ネットワークの通信システム	高速インターネットの回線使用料	7,399,700円
校務支援システム等の保守	名簿、出席簿、通知表、指導の記録、成績簿管理、保健管理などの機能を搭載	5,882,800円
複合機の設置	カラー・モノクロ印刷を同価格帯とした全小中学校総設定枚数プランの複合機を設置	11,051,040円
ICT支援員の配置	ICT支援員2名が各校を巡回し、教職員の困り感を解消	9,625,000円
磁気記録媒体保管業務	データセンターの1週間分のバックアップデータを遠隔地に保管	161,700円

外部評価委員の意見

- ICT環境の充実により教職員の働き方改革は劇的に改善しつつある。使えば使うほど事務作業の時間は短縮できる。ただこれもそのスキルによって差が大きい。全職員がその便利さを享受できるよう、研修を進めたい。
- 旧来の当たり前を見直したい。例えば小学校では、市販テストに代わり、タブレットでフォームを使って行えば、採点・記録の時間は劇的に減らすことができる。
- 中学校部活動の地域移行は、全国的にも大きな課題となっている。地域のスポーツ団体や文化団体と協働し、中学生の生涯学習につながるよう、制度設計、環境整備をお願いしたい。
- 在校時間の推移では小学校の数は下がっているが、中学校では80時間超の数が90人から129人に増加している。在校時間に対する教員及び管理職の意識を高める取組を今後も継続していく必要がある。
- GIGAスクールサポーター（ICT支援員）については、教材の作成支援、他の学校の成功事例や専門的な情報を提供、研修会の実施等、現場のニーズに対応していると推察される。各校の支援活動に対する現場の要望・意見、支援員から見た現状と課題などを集約し、今後に生かしていただきたい。
- 国策で部活動の地域移行が進められているが、受け皿となるスポーツ・文化団体等との連携、指導者の質・量の確保、会費・保険の保護者負担などの課題が山積している。
「部活動指導員配置制度」に加えて、謝礼で支払う「部活動指導サポーター制度」を新たに構築し、部活動の地域移行に向けた検討を進めるため、総括コーディネーターを配置したことで、部活動の地域移行が前進することを期待したい。

学校施設の整備

令和4年度教育委員会点検及び評価書

重点目標	<p>子どもの意欲を高め、教師の働きがいのある魅力的な教育環境づくりを進める。</p>
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校の校舎の老朽化状況を確認した結果、健全度が最も低かった白木中学校の校舎の長寿命化改修工事を令和3年度と令和4年度の2年間で完了した。 ・師勝北小学校と栗島小学校の体育館改修工事（2期工事）を完了した。 ・新型コロナウイルス感染症対策のために中止としていた水泳授業を、3年ぶりに実施するためのプール施設の修繕工事を実施した。 ・水道管の破裂による漏水を、緊急工事により最小限に抑えた。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・白木中学校の校舎の長寿命化改修工事は、本市にある16学校のうち、一番目の工事であったが、大きなトラブルもなく完了できたため、学校との調整も含めた工事工程のノウハウが確立できた。 ・白木中学校の生徒から、教室やトイレ等が綺麗になったことによる喜びと感謝の意見をまとめた資料が工事関係者に対して届いた中で、「気分が明るくなった」や「成績が上がった」という意見があった。 ・体育館改修工事（2期工事）は、令和4年度に2校が完了し、市内16校のうち8校が完了した。 ・プール施設について、大規模な修繕工事が必要となった場合には、民間施設の屋内プールを活用する方向性が確立できた。 ・水道管が経年劣化している中で水道水が流失し余分な費用が発生することが無いよう、学校での週に1度の検針により使用量の異常が疑われる場合の連絡体制が徹底され、迅速に水道管修繕工事の対応ができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の長寿命化改修工事について、残りの15校の工事を進める必要がある。（15校のうち西春中学校の校舎は、平成20年度に環境省モデル事業による改修工事を実施したことにより健全度は高い。） ・体育館改修工事（2期工事）は、学校の利用以外にも社会教育施設としての市民の利用を始め、避難所や投票所として利用されることから、整備を加速化する必要がある。 ・プール施設について既存のプール施設により水泳授業を実施している

	<p>1 3校について、水泳授業を実施するための既存のプール施設の修繕費を掘み、使用を継続するために修繕するか、民間の屋外プールを活用する方法に切り替えるかの判断が求められる。</p> <p>・学校グラウンドが老朽化により状態が悪化しているため、状態の悪いグラウンドから順次修繕工事を実施する必要がある。</p>
今後の対応	<p>・学校施設の老朽化状況を確認した結果、健全度が2番目に低い訓原中学校の校舎の長寿命化改修工事に向けて、令和5年度に実施設計を行う。</p> <p>・令和5年度に師勝南小学校・五条小学校・師勝東小学校の体育館改修工事（2期工事）を行う。</p> <p>・令和5年度に西春中学校のプール施設の取り壊し工事を行う。</p>

実績データ

1 校舎長寿命化改修工事

白木中学校

校舎	延床面積	工事年度	事業費
北棟	2,865 m ²	令和3年度	581,900,000円
南棟	2,395 m ²	令和4年度	うち国庫補助 174,001,000円
主な工事内容		外装工事	屋上防水、外装改修、外部建具
		内装工事	天井張替、トイレ改修、壁塗替、黒板改修
		設備工事	照明器具LED化、キュービクル
		その他工事	渡り廊下の改修

2 体育館改修工事（2期工事）

(1) 師勝北小学校

体育室面積	工事年度	事業費	
1,215 m ²	令和4年度	123,530,000円 うち国庫補助 18,070,000円	
主な工事内容		外装工事	外壁の剥落防止
		内装工事	床坂の剥離補修、建具取替、トイレ改修
		設備工事	バスケットゴールの取替
		その他工事	放送設備の更新、ステージスクリーンの取替

(2) 栗島小学校

体育室面積	工事年度	事業費
919 m ²	令和4年度	127,380,000 円 うち国庫補助 9,686,000 円
主な工事内容	外装工事	外壁の剥落防止
	内装工事	床坂の剥離補修、建具取替、トイレ改修
	設備工事	玄関スロープの設置
	その他工事	放送設備の更新、特別教室の改修

(3) 体育館改修工事（2期工事）の実施状況

平成27年度	鴨田小学校、白木小学校、白木中学校、天神中学校
令和元年度	師勝西小学校、西春中学校
令和4年度	師勝北小学校、栗島小学校

3 プール施設修繕工事

令和4年度

該当校	事業費
13校	22,880,000 円
主な工事内容	プール槽の剥離箇所の塗裝修繕、シーリング打ち替え工事 プールサイドの長尺シート貼替え工事

4 民間施設の屋内プール活用による水泳授業

該当校	学校名	事業費
3校	師勝南小学校・西春中学校・訓原中学校	15,084,630 円
業務委託契約による実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内プールの利用 ・水泳授業の監督、指導補助 ・中型バスによる児童生徒の送迎 	

外部評価委員の意見

- 校舎の長寿命化改修工事は、今後も引き続き 計画的に進めていただきたい。
- プールでは民間の屋内プールを活用しているのも望ましい。他市の報告を聞くと、天候や季節に関わらず計画的に取り組み、なおかつ施設の指導者と教師の役割分担も明確になり働き方改革にも繋がるなど、きわめて有効であると聞いている。積極的に活用していただきたい。
- 長寿命化改修工事、2年間で実施する上で、大きな問題がなかったのは幸いである。
- 既存のプール施設により水泳授業を実施している13校で、他の3校は外部委託となっている。外部委託でのメリット・デメリットを洗い出し、今後の方向を検討していただきたい。(NHK 東海NEWS WEBによると愛知の公立小学校の約14%水泳の授業を学校以外の施設で実施)

I 生涯学習課

令和4年度の点検及び評価の対象事業については、以下の3つの項目を対象とした。

番号	点検及び評価項目	点検及び評価の対象とした理由
1	はたちのつどい事業	<p>20歳（はたち）という人生の節目に、改めて成人としての自覚を持ち、また、北名古屋市への愛着を深めてもらうことを目的に「はたちのつどい」を開催しているが、多くの対象者や家族は、「スーツや晴れ着を着て友人と再会する同窓会」として捉えている。コロナ禍の2年間は、10会場分散開催とし、地域の方の協力をいただき実施したが、諸課題によって協議の末に1か所開催に戻った。</p> <p>2022年から成人年齢が引き下げられ、今一度、開催意義、実施手法等を考えたい。</p>
2	市図書館と関係機関の連携	<p>図書館・関係機関及び学校図書館と連携したサービスを充実させ、多様な連携を行うことで限られた資源を有効活用し、市民へのサービス拡充に結び付ける。</p> <p>特に学校図書館との連携については、各学校図書館の現状・課題を把握し、実施可能な計画及び事業を検討していく。</p>
3	博物館の魅力と持続可能性を高めるコレクション・マネジメントの推進	<p>収蔵資料の拡充に伴いコレクションの充実化が進む一方で、収蔵スペースが逼迫し、持続的な資料収集活動に基づく発展的な博物館活動の推進が危ぶまれる状況となっている。そのため、効率的な活用と収蔵の両立を可能とするコレクション・マネジメントを推進し、全国的にもユニークな昭和生生活資料コレクションによる集客の拡大と持続的な博物館活動の実現を可能とする取り組みを継続して実施していく必要がある。</p>

はたちのつどい事業

令和4年度教育委員会点検及び評価書

重点目標	多様な団体等との連携・協働の推進
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「成人のつどい」は、新型コロナウイルス感染予防対策により、令和3年・4年の2年間、地域実行委員の協力を得て市内10小学校区で開催したが、学校及び地域の負担が顕在化した。 ・持続可能なより良いつどいを目指し、アンケート及び実行委員会での協議を重ね、対象者の希望「たくさんの友人に会いたい」が叶う名古屋芸術大学アートスクエアを会場に、名称もはたちのつどいに一新し、1会場午前午後2部制での開催とした。 ・地域実行委員の多大な協力を得て、フォトスポットの設置及びYouTube配信という新たな試みを行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・懐かしい友人と再会し時間を共有することで、盛大な式典となり、華やかで楽しい満足度の高いはたちのつどいが開催できた。 ・2部アトラクションの部では、実行委員が趣向を凝らした恩師メッセージと懐かしい思い出の写真を企画し上映。 また、市の歴史や名産品等を調べた北名古屋ゆかりのクイズを実施し、自分たちの成長と市の歩みを振り返りながら、市内企業から提供された景品を目指して、会場は大きな歓声と笑いに包まれた。 ・つどい開催日の夜から限定配信したYouTube動画は、会場にこられなかった対象者や家族に高評価であった。 ・対象者から地域への感謝と関心を持つことができたアンケート回答があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策及び参加想定者数から2部開催としたが、市全体で開催を希望する声も多く、早急な検討が必要。 ・会場周辺道路に滞留する対象者や家族の安全確保並びにジャンボプール下資源集積所の閉鎖に係るトラブル対応に、スタッフの増員が必要。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の協議を踏まえて、社会教育委員会の審議を経て、令和7年・8年の概要を決定し、早期に発表する。 ・スタッフの増員を図り、安全確保等に努める。 ・実行委員会にオンラインを導入して協議環境を整え、対象者の希望するつどいが実施できるよう、支援する。

実績データ

1 令和5年はたちのつどい開催概要

(1) 開催日、場所、参加者

令和5年1月7日（土） 名古屋芸術大学アーツスクエア（文化勤労会館）

	開催時間	対象者	参加者	参加率
午前の部 (西春、白木、天神中学校区)	10時～10時45分 開場9時 閉場11時30分	380人	299人	78.7%
午後の部 (師勝、訓原、熊野中学校区)	13時～13時50分 開場正午 閉場14時30分	503人	404人	80.3%
合計		883人	703人	79.6%

※ 対象者：平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの方

(2) 実施主体

はたちのつどい実行委員会（新成人34人が企画運営し、地域の方32人が協力）

北名古屋市・北名古屋市教育委員会

※ 実行委員は、各校ごとの新成人、自治会、地域学校協働活動推進員、児童館及び市職員等

(3) 内容

ア 一部式典：市長ビデオメッセージ、はたちの誓い

二部アトラクション：思い出の写真と恩師メッセージの上映、北名古屋クイズ等

イ フォトスポット設置、メッセージカード配布

ウ 映像配信（編集後 YouTube にアップし3月31日まで限定公開）

エ 検温、手指消毒、施設内一方通行の他、家族入館の自粛を依頼し感染対策

(4) 決算見込み

348千円

2 過去の参加者

開催年	会場	参加者	参加率
平成31年	文化勤労会館	682人	79.3%
令和2年		645人	75.9%
令和3年	10小学校	681人	80.3%
令和4年		666人	77.5%

3 令和5年はたちのつどい実行委員アンケート結果

質問内容	回答	意見
実行委員会の開催時期・回数・日程(時間)について	<ul style="list-style-type: none"> ・良い 19 ・分からない 4 ・良くない 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成意見:密が避けられる。着付け屋さんの混雑が分散される。スタッフの慌ただしさが半減される。
二部制での開催、開場・閉場時間について	<ul style="list-style-type: none"> ・良い 19 ・分からない 4 ・良くない 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・反対意見:午前の部の子達の中に午後の部に友達がいる場合、ずっと待っている。みんな一緒にやれるのがやはり良い。
フォトスポットの設置について	<ul style="list-style-type: none"> ・良い 20 ・分からない 2 ・良くない 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・とても良い案で綺麗で素晴らしいものでした。 ・魅力は感じていなかった印象(スマホで加工もできる・・・)。背景関係なくどんな場所でも、仲間と一緒に楽しそうに写真を撮っていた。ただし、「北名古屋市」とわかるインタビューボードや「はたち証書」には、興味があったようにみえた。 ・小ホールまで設置必要はないと感じた。
自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTube等の配信は、当日の様子がわかってとても良いと思った。 ・感謝と地域へ関心を持つことができた。 	

4 当日の様子



外部評価委員の意見

- 令和5年のはたちのつどいは、コロナ禍の中ではあったが、特にアトラクションの部では趣向を凝らし、また YouTube を使った参加できなかった人への配慮など、とてもよい会になったと理解している。今後に向けて、参加者自身による持続可能な運営を期待したい。そのためには、例えば各中学校卒業時に実行委員の候補者を決め、その人たちが3年前から企画の手伝いをするなど継続的に参画することで、主体的な運営が後輩に引き継がれることになる。そのような制度設計を考えたい。
- コロナ対応に配慮しつつ、式典、アトラクション、フォトスポット設置、映像配信等、本事業の目的（20歳という人生の節目に、改めて成人としての自覚を持ち、また、北名古屋市への愛着を深めてもらう）と対象者の希望（たくさんの友人に会いたい）を共に実現するために、担当行政と地域実行委が尽力していることがうかがわれる。
- 単なる盛大な同窓会なら公費を使ってやる必要はないという意見もあろうが、この機会に北名古屋の魅力を発信し、北名古屋への愛着を深めることは意義がある。故郷への誇りと愛着は、そこに根づく人も、遠くで故郷を思う人にとっても心の支えとなる。自由意見には「感謝と地域へ関心を持つことができた」という一文があるが、これだけで、本事業のねらいが達成されたか判断することは難しい。本事業を振り返る上で実行委員だけでなく、参加者対象のアンケートの実施が必要である。集計しやすいように、会場で、参加者にスマホからアンケート記入できるようにするなど、回答しやすい工夫をしてアンケートを実施してほしい。
- 開催を2部にするかどうかの議論は、今後の検討課題であるが、本事業のねらいをふまえ、参加者のため、北名古屋市のため、何が最善かという議論が行われることを期待する。

市図書館と関係機関の連携

令和4年度教育委員会点検及び評価書

重点目標	新しい時代に向けた社会教育施設の有効活用
令和4年度の取組内容	<p>●図書館・関係機関及び学校図書館との多様な連携によるサービスの拡充</p> <p>1 目的</p> <p>図書館・関係機関及び学校図書館と連携したサービスを充実させ、多様な連携を行うことで限られた資源を有効活用し、市民へのサービス拡充に結び付ける。</p> <p>特に学校図書館との連携については、これまで十分な協議は行われていなかったため、図書館サービス計画の更新に伴い自己評価を加え、積極的な連携の必要性を明らかにし、学校図書館との連携を密にすることにより子どもの読書活動を推進する。</p> <p>2 連携の概要</p> <p>(1) 図書館連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書資料の相互貸借 愛知県公共図書館協会加盟館間資料相互貸借規約に沿って資料の相互貸借を行い、利用に供した。 ・まちに図書があふれるプロジェクト「ぶらぶら文庫」 旧西図書館の除籍資料を活用した児童館を軸に民間事業所による図書の配架サービス「ぶらぶら文庫」について、設置場所のマップを図書館ホームページで紹介するなど利用促進を図った。 ・名古屋芸術大学附属図書館との相互協力 北名古屋市図書館及び名古屋芸術大学附属図書館の利用者の相互利用に関する協定により、音楽・保育園関連、美術関係の専門書を多数所蔵する大学図書館の利用を市民に供する。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民は利用中止となっていたが、令和5年4月から再開する。 ・愛知県図書館との連携 ラストワン・プロジェクトへの参加 県内図書館1館のみが所蔵する資料を県内図書館で協同して保存し、希少資料の分担保存に努めた。 <p>(2) 庁内連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北名古屋市歴史民俗資料館との連携 歴史民俗資料館の企画展に関連する図書を展示し、利用促進を図った。

	<p>また、歴史民俗資料館による図書館2階ロビーの展示スペース拡大や地下駐車場車両展示コーナーは、来館者数増加に寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所各課との連携 市役所各課の事業と連携し、関連する図書館のコーナーを設け、情報提供に努めた。家庭支援課との連携では、里親制度に関する図書館を展示し、制度に関する理解を深めた。その他、子育て・高齢者世代へのサービスに努めた。 <p>(3) 学校連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司書体験の実施 司書体験の事業を通じて、図書館サービスへの理解を深める。新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止とした。 ・図書館見学や職場体験学習の受け入れ 子どもたちが図書館の役割や仕事の内容を学ぶことができるように、図書館内の見学や職場体験学習を積極的に受け入れた。 ・学校等への団体貸出の推進 小中学校や保育園、放課後子ども教室、児童クラブ等での調べ学習や朝読書等に必要な資料を収集し、提供した。
成 果	<p>図書館連携では、図書資料の相互貸借により、限られた蔵書・予算の中で利用者のリクエストに応えることができた。また、庁内連携では、各種事業のPRや情報提供ができた。</p> <p>学校連携では、図書館見学、職場体験学習の受け入れや学校等への団体貸出を実施している。</p>
課 題	<p>学校連携については、図書館見学、職場体験学習の受け入れや学校等への団体貸出の取り組みに限られている状況であり、多様な子どもの読書活動を推進するためには、市図書館・学校図書館間の連携・協力体制を強化する必要がある。なお、図書館協議会において学校図書館との連携について、各学校図書館の現状・課題を把握し、具体的な読書活動を推進する事業を検討していくことで承認を得ている。</p>
今後の対応	<p>市図書館と学校図書館との連携について、市図書館と学校図書館が連携に期待する内容について調査・ヒアリングを行い、資源（蔵書・予算・人材等）と照合し、令和6年度からの「北名古屋市子ども読書活動推進計画」を策定し、読書活動を推進する。</p> <p>また、市図書館と学校図書館との連携を検討するため、学校図書館の司書教諭との連絡会議（図書主任会）を設け、検討を重ね、令和6年度には、連携を基に子どもの読書機会の増加、調べ学習等主体的・対話的で深い学びにより両図書館の活用が推進されるよう事業を具現化する。</p>

○実績データ

学校との連携事業の現状

(単位：回)

年度	図書館見学	職場体験学習	インターンシップ	社会体験研修
令和元年度	東6・西3	東4・西3	東1	東1・西1
令和2年度	東2・西2			
令和3年度	3			
令和4年度	2	1	1	

※東：旧東図書館受け入れ、西：旧西図書館受け入れ

(単位：団体)

年度	団体貸出							合計
	小学校	中学校	児童館	小学校 読み聞 かせ団 体	児童 クラブ	放課後 子ども 教室	その他	
令和元 年度	6	1	2	10	9	8	13	49 団体 5,492 冊
令和2 年度	2	1	2	3	6	5	7	26 団体 2,041 冊
令和3 年度	5	1	0	4	8	6	7	31 団体 3,084 冊
令和4 年度	5	0	1	7	5	5	5	28 団体 3,188 冊

旧西図書館所蔵資料の活用状況（令和3年度）

- ・ 学校図書館 1,600 冊（各小中学校 100 冊）
- ・ 学級文庫等 3,583 冊（10 小学校 2,790 冊、6 中学校 793 冊）

外部評価委員の意見

- 地域内の図書館の連携は、各自治体で進められている。なかでも北名古屋市は、市の規模がほどよく、動きやすいと思われる。今進めている事業を更に充実させていただきたい。
- 名古屋芸術大学では認定絵本士の資格を取ることができ、その資格を取った学生の中から読み聞かせグループサークルが生まれている。そうしたサークルの活用場を市内の図書館等で与えていただけたらありがたい。
- 大学の持つ音楽・保育関連、美術関連の書籍・資料は膨大である。そうした資源も有効活用していただきたい。
- 学校連携が課題である。令和6年度からの「北名古屋市子ども読書活動推進計画」の中で、学校連携の鍵となる連絡会議で、実効性のある計画の提案を期待する。目新しいことでなくてもよい。北名古屋市全体で取り組む朝読書、読み聞かせなど、従来からある実践でも教育的効果が大きい活動を更に充実していけばよい。
- 調べ学習等では、タブレットの活用が増えているが、本のよさ（情報の正確性・信頼性）をアピールし、活用方法や活用場面を具体的に提示する工夫を今後考えていく必要がある。

令和4年度教育委員会点検及び評価書

<p>重点目標</p>	<p>新しい時代に向けた社会教育施設の有効活用</p>
<p>令和4年度の取組内容</p>	<p>●博物館の魅力と持続可能性を高めるコレクション・マネジメントの推進</p> <p>1 目的</p> <p>効率的な活用と収蔵の両立を可能とするコレクション・マネジメントを推進し、全国的にもユニークな昭和生活資料コレクションによる集客の拡大と持続的な博物館活動の実現を目指す。</p> <p>2 背景</p> <p>当館の昭和生活資料コレクションは、近隣地域をはじめとする一般の方々からの資料提供によって構築されてきた。近年では全国的な知名度の高まりとともに資料寄贈件数も増加しており、令和4年度末では15万点を超える資料を収蔵するに至っている。また、コレクターが蒐集したコレクションを受け入れるケースも増えており、令和3～4年度にかけては日本有数のホーロー看板コレクションを中心とする、佐溝力氏が蒐集した総数7,000点を超す大規模コレクションを受贈した。</p> <p>こうした寄贈資料の増加によってコレクションの充実が進む一方で、収蔵スペースには限りがあり、限られた空間の中で効率的に収蔵するための収蔵方法の持続的な見直しや改善が必要となってきた。さらに加えて、膨大なコレクションを余すところなく活用し、スポットの当たらない資料をなくしていくための多角的な視点での展示活動の実行も必要となってきた。収蔵と活用の両立を図るコレクション・マネジメントの推進が求められる状況となっている。</p> <p>3 多彩なコレクションの活用</p> <p>令和4年度に開催した企画展では、展示への活用頻度が低い収蔵資料、収蔵点数の多い資料群を展示の中心に据えることで、コレクションの幅広さや奥深さを伝えるとともに、目新しい展示資料により新たな来館者の獲得を目指した。</p> <p>・企画展「紙モノづくし～つたえる・つづる・つつむ・はる・ふく・あそぶ～」(開催期間：令和4年3月5日～5月29日)</p>

これまで展示の中心となることがなかった紙袋、包装紙、チラシなどの紙製品をテーマにすることで、紙資料コレクションの規模や多様さを伝える展示とした。

・企画展「昭和・夏モノ・デザイン～記憶の中の夏を彩る道具のカタチ～」
(開催期間：令和4年7月16日～9月25日)

扇風機、かき氷機、ガラス瓶等、収蔵点数の多い資料群を集合体として展示することで、年代による変化やデザインの多様性等を見ることができる展示とした。

4 収蔵と活用の両立を図る展示改修

佐溝氏からコレクションを受贈するにあたり、その中核となる4,500点程に及ぶホーロー看板の収蔵スペースの確保と常設的展示スペースの創出が急務となった。コレクションの移管を開始した令和3年度には、受け入れに伴う収蔵庫の負担を軽減しつつ、かつホーロー看板資料を効率的に保管・活用できるよう、展示室の一部を改修し、保管と展示を表裏一体とした収蔵・展示構造を2か所に設営した。これにより効率的にホーロー看板資料を収蔵するとともに、新規に加わった資料を迅速に常設展示へと活用することが可能となった。【写真1・2】

佐溝氏コレクションの移管が完了した令和4年度には、受贈記念特別展「琺瑯×デザイン～ホーロー看板に見るレトロ商業デザインの世界～」(令和4年11月5日～令和5年1月29日)を開催し、日本屈指のホーロー看板コレクションを当館独自の視点で編集し、広告と製品の両面から日本の商業デザインを俯瞰する機会とした。同展開催にあたっては、コロナ禍により長らく公開を休止していた「街並み情景展示」のリニューアルを行い、再開することで展示空間の更なる充実を図った。展示店舗の新設とレイアウトの変更等を行い、より見やすく、充実した情景展示とするとともに、街角や店舗という広告本来の活躍の場を再現した空間で、ホーロー看板を常設的に展示活用が行えるよう整備を行った。また、このリニューアルに際しては、収蔵も念頭に置いたレイアウトの変更を実施しており、情景展示のバックヤードに収蔵スペースを確保することで逼迫する収蔵庫の負担の軽減を図った。

成 果

紙資料、ホーロー看板等の未展示資料、新規収蔵資料の展示、リニューアルによる展示空間の充実を進めたことにより、新規利用者の獲得を含め、前年に比して大幅な来館者の増加につながった。また、収蔵庫の整理、収蔵

<p>成 果</p>	<p>方法の見直しを持続的に進めることで、一部ではあるが、限りある空間を効率的に使用し、展示等への活用を円滑に行える収蔵環境を整えることができた。</p> <p>【年間来館者数・1日平均来館者数】 令和3年度：16,166人（75人／日）、令和4年度：26,804人（93人／日）</p>
<p>課 題</p>	<p>資料寄贈についての問い合わせが増え、コレクションの充実化が進む一方で、継続的に収蔵方法の見直しを行っているが、収蔵スペースが逼迫している状況が続いている。大型資料や大規模コレクションの受入れは、今後かなり難しい状況になっていくと考えられ、資料受入れの基準を現状以上に厳格化する等、博物館活動の根幹とも言える資料の収集に大きな影響が生じる可能性がある。</p>
<p>今後の対応</p>	<p>コレクションの拡充とその効果的な活用は、展示、学び、社会的貢献などの広範な博物館活動を支える生命線である。コレクションの拡充が博物館の活動に新陳代謝を促し、活性化する。そして、コレクションの拡充の前提となるのが、資料の収集であり、適切な収蔵保管が持続的に進められることである。活発な博物館活動を持続可能にするためには、コレクションの拡充を支える収蔵スペースが不可欠である。現状の収蔵庫以外で新たな収蔵スペースが確保できることが将来的には最善であるが、喫緊の対応としては、既存の収蔵スペースの見直しと整理を持続的に行い、より効率的・効果的に空間を利用していく必要がある。また、展示空間においても、先に述べたような展示と収蔵を一体とした展示方法・展示什器の考案等、展示の魅力を高めつつ収蔵保管にも貢献するような展示改修を進めていく。</p>



写真1：ホーロー看板常設展示壁面



写真2：展示壁面裏側の収蔵棚

外部評価委員の意見

- 本市の博物館は昭和的生活資料に特化しており、とても魅力を感じる。新学習指導要領・小学校3年社会科では、これまでの「昔の道具」に加えて、「市のうつりかわり」を学習する。これまでは「もの中心」であったが、街並みの写真も収集されていけば学校としてはありがたい。画像であれば、保管スペースも必要ない。
- 最近の博物館では、動態展示や視聴覚展示が増えている。予算がかかることではあるが、今後導入を検討していただければと思う。樹林舎では、『岩倉・西春日井の100年』を刊行する際に昭和の写真を多数収集した。そうした写真資料を協働して映像展示できれば展示の幅が広がる。
- 北名古屋市の宝と言っても過言ではない。魅力的で貴重な資料の宝庫である。それを生かすべく担当者の熱意と努力が入館者数の増加につながっている。学校教育に生かす具体的な取組を大いに期待している。それとともに、コレクションの充実と保管を持続可能にするために、積極的に情報発信を行い、本博物館活動の意義と価値の周知を図りたい。
- 今後の博物館運営には将来的な展望、学術的価値をアピールするだけでなく、本事業がいかに北名古屋市の発展（もっといえば利益）につながるかを訴えていく。そのためには、熱烈な支持者だけでなく、多くの人の声と要望を集められる情報発信を工夫していただきたい。

Ⅲ スポーツ課

令和4年度の点検及び評価の対象事業については、新たなスポーツイベントの実施に係る以下の2つの項目を対象とした。

番号	点検及び評価項目	点検及び評価の対象とした理由
1	スポーツであ〜そぼ!の実施	運動遊びの機会の重要性に着目し、子ども達に身体を動かすことの楽しさや面白さを感じてもらう必要があることから、コロナ禍を機に市民体育祭に変わる新たなスポーツイベントを実施した。今後も市民のスポーツ実施率の向上に寄与する必要があるため。
2	きたなごやRUNフェスタの実施	冬の恒例イベントであった「北なごやふるさとマラソン」は過去31回にわたり開催した「新春チャレンジマラソン」を継承し、平成27年から本市の一大スポーツイベントとして実施してきたが、コロナ禍を機にリレーマラソンに特化した新たなスポーツイベントを実施した。今後も市民や市内企業の絆作りを推進するとともに市民のスポーツ実施率の向上、並びに健康維持増進に寄与する必要があるため。

スポーツであ～そぼ！の実施

令和4年度教育委員会点検及び評価書

重点目標	スポーツ実施率の向上
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼たちが複数用意するミッション（走る・跳ぶ・投げる等の体を動かす種目）のクリアを目指すことで、日頃、スポーツに興味のない方に体を動かすことの楽しさを知ってもらうため、ストーリー性を持たせ、ゲーム感覚で楽しみながら様々な運動遊びを体験できるスポーツイベントを実施し、市民の健康維持増進を図った。 ・費用対効果を意識するため、午前中だけの開催日程で実施した。 ・業者委託費の削減を行うため、会場は天候により開催可否が左右されにくい総合体育館で実施した。 ・多くの市民が参加出来るように、当初は参加定員を200名としていたが、大幅に定員を超える276名の応募があり、コロナ禍でもあったことから、開催当日の欠席者を考慮し、定員を250名まで増やす配慮を行った。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・主たる参加者を子どもに絞り、運動しない子どもや運動が苦手な子どもが参加し易い形態とし、遊びを通して運動の楽しさを伝えることが出来た。 ・参加募集のPR方法については、PR用動画を委託制作しYouTubeに公開するなどSNSを活用し広く周知することが出来た。 ・イベント当日のオープニングやエンディング用の動画も制作することで遊びを通して、子ども達の体を動かす意欲の向上に繋げることが出来た。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、子どもの運動機会が減少したこともあり、スポーツ庁が発表した「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」によると、小中学校の男女ともに体力合計点が過去最低となる中、昨今の子どもの身体活動量の低下や運動離れは、すでに幼児期から起こっていると考えられることから、この点を意識した「スポーツであ～そぼ！」は、今後も継続的な開催が求められる。 ・今後、魅力あるスポーツイベントとして定着するよう様々な視点で検討していく必要がある。 ・市民体育祭は、幅広い年齢層を対象としていたこともあり、協力していただいたスポーツ関係団体の中からは、参加対象を幅広く募るべきではないかとの意見もあった。 ・協力スタッフの体力を要するブースもあったことから、学生や若い世代のボランティアの確保が必要である。

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の市民体育祭と切り離し、昨今、問題視されている子どもの体力低下の問題に着目、子どもが発達段階に応じて身に付けておくことが望ましい基礎的運動能力の動作を楽しむ内容を継続する。 ・参加する対象者については、前回と同様、5歳から小学生（小学3年生までは保護者同伴）までとして、スポーツ人口の裾野を広げる取組みを継続する。 ・参加定員の増員については、実行委員会の中で検討する。 ・特に若年層のボランティアの確保に努める必要があることから、大学等教育関係機関にもボランティアの募集を呼びかける。
-------	---

実績データ

各スポーツ団体の協力のもと、(公財)日本スポーツ協会が開発した、子ども達が楽しみながら、多様な動きを体験し、積極的に身体を動かすことのできるACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）の概念を応用、子どもも大人も集団で身体を動かし、基礎的運動能力である「走」・「跳」・「投」の動作を中心に競技性よりも遊戯性を優先しながら、かつ、障がいのある方や年齢に左右されず、バリアフリーの要素を加えて体験できるスポーツイベントを企画した。

開催日時：令和4年10月9日（日）午前中

参加対象：5歳～小学生（小学3年生までは保護者同伴）

参加者数：220人

今回は「鬼ヶ島編」と題し、「世界的感染症の流行により溜まったストレスから生まれた鬼が総合体育館を鬼ヶ島に変えてしまった。総合体育館を取り戻すために鬼たちの出すミッションをクリアする」というゲーム感覚を付与した。

オープニングイベント（鬼登場～ミッション説明まで）

ブースイベント

◎鬼ごっこ 鬼のシッポをとれ！ ◎紙ヒコーキで鬼をやっつける！

◎ラダーゲッター ボールをひっかけて高得点をねらえ！

◎ピッチャーパネル 鬼にあててやっつける！ ◎ケンケンパッパ ケンパッパ

◎ねむり鬼からヒイラギ玉をうばえ！ ◎鬼車イスを乗りこなせ！

◎地獄の一本橋じゃんけん対決 ◎鬼のトラップをクリアせよ！

エンディングイベント(みんなで鬼を倒して体育館を取り戻すまで)

(1) 申込者・参加者

申込者	参加決定者	参加者
276人	249人	220人

(2) 年齢別申込者

年齢	申込者
3歳～5歳	31人
6歳	27人
7歳	32人
8歳	23人
9歳	26人
10歳	23人
11歳	24人
12歳	3人
小計	189人
保護者等 (30代～50代)	87人
合計	276人



鬼ごっこ 鬼のシッポをとれ!



鬼車イスを乗りこなせ!



エンディング (ボス鬼と対決)

(3) 協力団体等

団体名等	協力者
スポーツ推進委員会	17人
レクリエーション協会	17人
ふれあいスポーツクラブ	16人
スポーツ協会	14人
ボランティア	17人
合計	81人

(4) 参加者意見・感想 (アンケート結果: 回答数 165 件)

次回も参加したいですか?	はい 161件 いいえ 0件 無回答 4件
意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった ・さいしょはおにがこわかったけど楽しかった ・とても楽しめました。最初、鬼を怖がっていた子供たちも、やり始めたらとても楽しんでいました。また、こういうイベントがあったら参加したい。 ・車いすに乗る機会はなかなかないので良い経験ができました。今回のような楽しいテーマなら苦手なものも気軽にチャレンジできる。 ・日頃、運動することがなかなかなかったので、大人も楽しめました。

(5) 予算額

(単位: 千円)

関係事業名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市民体育祭事業	0	0	440

※ 令和2・3年度は、コロナ禍のため当初予算0千円、令和5年度より事業名を「子どもスポーツ推進事業」へ変更。

外部評価委員の意見

- 5歳から小学生までが参加できるスポーツイベントとして「鬼ヶ島」をテーマにゲーム感覚で行われたことはアイデアとして素晴らしい。今後もより持続可能なイベントとするために、毎年、あるいは小規模でもよいので毎月定例化できるとよい。そのためには、スポーツ推進委員会や多くのスポーツ団体による市民主導、さらには中学生、高校生、大学生といったボランティアの活用が望まれる。
- ねらい、対象者を明確にして、周知すれば市民の理解と賛同が得られる。今回の取組は、対象者を子どもに絞り、子どもの体力低下問題に対応し、今後のスポーツ人口の裾野を広げる取組として高く評価できる。今後の継続的な事業展開を期待したい。
- 本事業を支えるボランティア、特に若年層のボランティアの確保については、地元の中学校、高等学校、大学等教育関係機関に募集を呼びかけることで、人材確保と本事業の理解と支援が得られるのではないだろうか。

きたなごやRUNフェスタの実施

令和4年度教育委員会点検及び評価書

重点目標	スポーツ実施率の向上
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康増進、市民相互のふれあい、更に連帯感の醸成を目的に、従来の個人種目のマラソンからチームでの参加のリレーマラソンへ切り替えるため、スポーツ関係団体で組織する実行委員会を立ち上げ、委員会の中で議論を重ねた。 ・競技部門については、小学生の部（小学4～6年生）、中学生の部、記録を重視する方を対象としたシリアスランの部、並びに仮装して走ることも可能なエンジョイランの部の4部門を設定し、より多くの市民が参加できるように工夫した。 ・競技に参加しない方も楽しめるように、企業ブースの設置やキッチンカーを招くなどの要素を加え、本市の新たなスポーツイベントとしての魅力を持たせて、市民に参加を呼び掛けた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてリレーマラソンに特化した形で実施し、大会当日は、942人の参加者を含め、約2,000人の来場者があり、アフターコロナをイメージした一大スポーツイベントとして実施することが出来た。 ・コロナ禍の中、市民が触れ合う機会を通じて連帯感の育成、並びに健康維持増進に寄与することが出来た。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業や市の関係団体にも参加を呼び掛けたが、参加申込者数が極端に少なかったため、参加費やPR方法等について検討する必要がある。 ・気軽に参加できる個人種目の設定についても、市民の健康維持増進を実施していくうえで必要がある。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・PR方法について、市広報や市ホームページだけではなく、SNSの利用や市内小中学校へのチラシの配布等、PR方法の改善や参加費の設定等を再検討する。 ・より多くの市民が参加できるように新たに個人種目を設定し、気軽に参加できる魅力あるスポーツイベントを目指す。

実績データ

開催日：令和5年3月5日（日）

会場：北名古屋市文化の森 物語の広場

対象者：市内在住・在勤・在学及び市の関係団体に所属する方

部門：リレーマラソン3人1チーム（1人1km）の4部門

	部門 (対象)	制限時間	参加費 (1チーム)	定員 (先着順)
1	小学生の部 (小学4～6年生)	なし	無料	各 50 チーム
2	中学生の部	なし	無料	
3	シリアスランの部 (高校生以上を1人以上含む)	1チーム 15分	1,800円	
4	エンジョイランの部 (1人で1kmを走り切れる小学 1年生以上) ※仮装可	1チーム 40分	1,800円	

申込期間：令和5年1月6日（金）～1月31日（火）

申込方法：インターネット・携帯サイト（二次元コード）・総合体育館受付へ直接申込

(1) 申込・参加者（1チーム3人）

部門	申込チーム	参加チーム	参加者
小学生の部	129 チーム	127 チーム	381 人
中学生の部	65 チーム	65 チーム	195 人
シリアスランの部	53 チーム	51 チーム	153 人
エンジョイランの部	71 チーム	71 チーム	213 人
合計	318 チーム	314 チーム	942 人

(参考) 従来の「きたなごやふるさとマラソン」参加者

年度	参加者（市外参加者含む）
平成27年度	773 人
平成28年度	中止（大雪警報発令のため）
平成29年度	913 人
平成30年度	798 人
令和元年度	1,173 人

※ 令和2・3年度は、コロナ禍のため中止

(2) 協賛企業

市内企業5社

(3) 招待市

ア 妙高市（災害時相互応援協定市）4チーム参加

イ 清須市 9チーム参加

(4) 参加者意見・感想

意見 ・感想	<p>(実行委員会・協力者より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初試みの大会で過去の多くの大会経験者がいたので無事に終了することが出来、非常に良かった。 ・リレーマラソンは、スピード性もあり、参加人員増にもつながり良い企画だった。 ・過去のマラソン大会とは違い、駅伝形式はとても良かった。 ・大勢の市民が参加している大会に携わることができて良かった。 ・小中学生、地元企業の参加が多く、北名古屋市民のイベントらしかった。 <p>(参加者より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーの台数を増やして、加えてスポーツに関するブースなどを置いてはどうか。 ・想像以上の盛り上がりにより胸が熱くなった。これだけの人が集まって、盛り上がるイベントが北名古屋市には必要だと思う。来年も参加したい。 ・1 km は子どもにはちょうどいいと思いますが、大人はもう少し距離があってもいいのかなと感じた。特にシリアスランは、もう1、2周して3 km 程度の周回コースにしてもいいかも。 ・1 km なので普段走っていない人たちでも気軽に参加できたのではないかと思います。 ・司会、実況の方のにぎやかさがウケており、盛り上がっていたと思う。 ・ひとりでも参加できる種目を検討すべき。 <p>(障害者団体より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートについて一定の配慮があって良かった。 ・車いすを押して走ったが問題はなかった。 ・タスキの受渡しについては、障害者の方には難しいところもあった。 ・楽しんで走ることができた。来年も参加したいと思っている。 ・手話通訳者がステージとスタート場所にいたので不自由はなかった。
-----------	--

(5) 予算額

(単位：千円)

関係事業名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
マラソン大会事業	0	0	9,788

※ 令和2・3年度は、コロナ禍のため当初予算0千円

外部評価委員の意見

- コロナ禍ではあったが、世は今でもマラソンブームが続いている。種目を変えると参加者が一時的に減るのはやむを得ない。ある程度継続することで、徐々に大会が認知されると考える。今後は幅広い年代でも参加者が増えるように工夫したい。
- 市民の健康増進、市民相互のふれあい、連帯感の醸成を目的に、今回リレーマラソンに切り替えた事業である。参加者状況は増加とあるが、令和元年度の1,173人に対して今回は942人と減少している。リレーマラソンに特化したことが原因の一つと考えられる。リレーマラソンの参加費用や方法等の見直しに加え、本事業の目的を考えれば、今後、個人種目も設定し、幅広い市民の参加を可能にする方向で検討していただきたい。

外部評価委員による全体意見

- 学校のICT活用による学びの充実の重点目標は「自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育む」とあるが、「～、自己の可能性を伸ばす力を育む教育環境を整備する」ではないだろうか。現在の重点目標なら、児童生徒の自己の可能性を伸ばす力がどのように育まれたか、授業の質がどう向上したかについて記述する必要が出てくる。
- ICT環境整備状況を始め、働き方改革、学校施設の整備等について教員、児童生徒、保護者の評価をデータ化したものがあると参考になる。
- スポーツ課の事業において、運営担当側とともに参加者の声を集約し次年度以降の取組に生きるデータ収集を試みてほしい。
- 各課で行われた8つの点検及び評価項目については、それぞれ工夫され、市民の期待に応えたものとして高く評価できる。『令和4年度北名古屋の教育』（北名古屋市教育委員会）の中には、学校教育課・生涯学習課・スポーツ課に、それぞれの「基本方針」「重点目標」が示されている。さらには、『第2次北名古屋市総合計画（2018年度～2027年度）』における「第2次実施計画の計画期間（2022年度～2025年度）」には、優先的に取り組む事業を重点プロジェクトとして「グローバル人材の育成に向けた子どもの英語力向上」「市民の絆を深めるイベントの開催」が挙げられている。外部から見ると、今回行った8つの点検及び評価項目と、各課の「重点目標」、市の「重点プロジェクト」との関係が分かりにくい。今後の評価においては、関係する計画と、点検及び評価の関係を今一度整理することが必要に思われる。